

政務活動費の調査研究に係る海外調査、宿泊を伴う県外調査の概要

1 題目: えがお夢政務調査

2 調査報告概要

<p>調査者 会派名等</p>	<p>[会派名、調査者全員の氏名] 福井 太一(えがお夢)</p> <p>調査には下記の議員も参加し、視察先の選定や調査研究等、あらゆる面で協働した。</p> <p>飯島 修(リベラル山梨) 志村 直毅(やまなし県民会議) 向山 憲稔(自民党信明会)</p>
<p>調査内容</p>	<p>1 調査目的 小学校における25人学級の導入、延伸は全国の教育関係者からも非常に高い評価を得ている。また、教職員の働き方改革に向けても、「文書半減プロジェクト」など独自の施策を押し進め、教職員が子どもたちと向き合う時間を確保するよう努めている。</p> <p>一方、不登校児童生徒数は、全国の状況同様に、本県も毎年過去最多を更新し続けている。多様な児童生徒の学びを保障するために、夜間中学や学びの多様化学校の設置や、新たな授業実践が、全国では進められている。</p> <p>本県においては、夜間中学、学びの多様化学校の設置に向けた検討は進められていない。そこで、愛知県及び名古屋市における先進的かつ参考となる施策について視察、調査、意見交換を行い、山梨県が直面する教育課題の解決に資するために、本調査を行う。</p> <p>2 調査テーマ</p> <ul style="list-style-type: none">・愛知県における中高一貫教育について・県立夜間中学の開校に向けて・名古屋市立夜間中学の開校に向けて・自由進度学習による個別最適な学びと協働的な学びについて <p>3 調査期間 令和 6年 1月29日～令和 6年 1月30日 (1泊 2日)</p> <p>4 調査地[海外→国名・都市名]・[国内→都道府県名・市町村名] 愛知県名古屋市</p> <p>5 その他</p>

3 調査テーマ毎の調査項目と選定理由

<p>[調査テーマ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛知県における中高一貫教育について ・県立夜間中学の開校に向けて 	<p>[調査項目]</p> <p>中高一貫教育と夜間中学設置にむけた検討過程や設置構想について</p> <p>[選定理由]</p> <p>現在、本県では未設置の中学校夜間学級(いわゆる夜間中学)は17都道府県に44校が設置されており、文部科学省では、夜間中学が少なくとも各都道府県・指定都市に1校は設置されるよう、その設置を促進している。</p> <p>中高一貫教育については、本県では、県立身延高校において連携型中高一貫教育が行われている。</p> <p>多様化する教育ニーズに対応するためにも、設置の先進地を調査するために選定した。</p> <p>[調査結果の活用方針]</p> <p>調査で得られたことを、県教育委員会へ提言していく。</p>
<p>[調査テーマ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋市立夜間中学の開校に向けて 	<p>[調査項目]</p> <p>政令指定都市が設置する夜間中学の概要について</p> <p>[選定理由]</p> <p>現在、中学校夜間学級(いわゆる夜間中学)は17都道府県に44校が設置されており、文部科学省では、夜間中学が少なくとも各都道府県・指定都市に1校は設置されるよう、その設置を促進している。本県においては夜間中学については設置されていない。多様化する教育ニーズに対応するためにも、設置の先進地を調査するために選定した。</p> <p>[調査結果の活用方針]</p> <p>指定都市において設置される夜間中学の県設置との比較も含め、中核市である甲府市設置の可能性について、県教育委員会へ提言していく。</p>
<p>[調査テーマ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由進度学習による個別最適な学びと協働的な学びについて 	<p>[調査項目]</p> <p>名古屋市立山吹小学校における自由進度学習について</p> <p>[選定理由]</p> <p>山梨県総合計画の「教育の充実」には「学校の授業に、子どもが学習状況を自分で判断して学習を進める「自由進度学習」などを導入し、従来の一斉授業による「教師主導の授業」から、「子ども主体の授業」への授業観の転換を進め」とある。Society5.0 社会を見据え新たな価値を創造する人材の育成に向け、現状の一斉授業スタイルから、子ども主体の授業への転換が求められている。将来的に、多様な他者と協働したり、自ら自己調整したりしながら学習を進めていく子ども主体の授業への転換が図られることにより、子ども一人ひとりの特性や関心・意欲に基づいた多様な学びを実現をめざす本県にとって、自由進度学習の先進校への視察は有益なものになると考え選定した。</p> <p>[調査結果の活用方針]</p> <p>本県が推進しようとする「自由進度学習」について、本県の実情に合ったものとなるように、県教育委員会へと提言する。</p>

4 調査項目に係る調査都市・施設・担当者等の選定

調査項目	都市名・施設名・担当者名及び選定理由
<p>中高一貫教育と夜間中学設置にむけた検討過程や準備状況</p>	<p>[都市(市町村)名・施設名・担当者名] 愛知県教育委員会 中高一貫教育室 室長 あいちの学び推進課 課長</p> <p>[選定理由] 愛知県教育委員会では、2021年12月に「県立高等学校再編将来構想」に基づき、県立高校の統合や新たなタイプの学校づくりなど、再編に向けた取り組みが進められてきた。 その一環として、中高一貫教育制度の導入について検討がなされ、25年4月に、愛知県の県立高で初となる併設型中高一貫校が設置される運びとなった。また、新しいタイプの県立夜間中学も25年4月に、夜間定時制をおく高校に設置が決まっている。 この設置までの検討過程や設置に向けた準備について調査するために選定した。</p>
<p>政令指定都市が設置する夜間中学の概要について</p>	<p>[都市(市町村)名・施設名・担当者名] 名古屋市教育委員会 新しい学校推進室 室長 主任指導主事</p> <p>[選定理由] 名古屋市教育委員会では、25年4月に、私立夜間中学校の設置を予定している。設置・運営については有識者等会議で意見を聴取し、方針が策定された。それによると、名古屋市立笹島小中学校内に単独校として開設される。このため、夜間専任の学校長による学校運営がなされる。 設置に向けた検討過程や夜間中学での学びの方向性を調査するために選定した。</p>
<p>名古屋市立山吹小学校における自由進度学習について</p>	<p>[都市(市町村)名・施設名・担当者名] 名古屋市立山吹小学校 校長 教頭</p> <p>[選定理由] 山吹小学校では、本県が推進しようとする自由進度学習を2020年度から実施している。「山吹セレクトタイム(YST)」と称し、子どもたちが自ら計画した時間割に沿って、一人一人が自分で学習を進めている。現行学習指導要領の趣旨を実現するため、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る学校づくりについて調査するために選定した。</p>

5 調査内容

○調査テーマ:(愛知県における中高一貫教育と県立夜間中学の開校に向けて)

調査項目	中高一貫教育と夜間中学設置にむけた検討過程や準備状況		
調査都市等	愛知県教育委員会	調査日	1月29日
調査結果概要	<p>1 県立中高一貫校について 愛知県教育委員会では、2022年7月に、4つの県立高校を、県立中高一貫校の第一次導入校として決定し、2025年4月の開校に向けて準備を進めている。</p> <p>(1)併設中学校の学校名 ・愛知県立名和高等学校附属中学校 ・愛知県立半田高等学校附属中学校 ・愛知県立刈谷高等学校附属中学校 ・愛知県立津島高等学校附属中学校</p> <p>2 県立夜間中学について 愛知県教育委員会は、2023年1月に、夜間中学を設置することを決定した。</p> <p>(1)設置のねらい 日本語指導が必要な外国にルーツをもつ方や不登校などの理由により中学校に十分通えなかった方に対する日本語の基礎指導や義務教育段階の学び直しに対応する夜間中学を夜間定時制高校に設置する。 ・夜間定時制高校には外国にルーツをもつ生徒が多く通い、夜間の時間帯の学校運営の実績があることから、夜間中学を夜間定時制をおく高校に設置する。</p> <p>(2)開校時期・中学校名(設置校) 2025年4月開校 県立とよはし中学校(県立豊橋工科高等学校) 2026年4月開校 県立とよた中学校(県立豊田西高等学校) 2026年4月開校 県立こまき中学校(県立小牧高等学校) 2026年4月開校 県立いちのみや中学校(県立一宮高等学校)</p> <p>(3)対象生徒 愛知県内に住所または勤務地があり、義務教育の年齢(満15歳)を超えた人で、次のいずれかに該当する人 ・日本または海外で義務教育を修了していない人 ・不登校様々な事情によって十分な教育を受けられないまま中学校を卒業した人 ※外国籍の人も入学可能 ※住所に関わらず、どの学校も選択可能 ※不登校の中学生は、在籍する中学校に籍を置いたまま「学びの場」として通うことが可能。授業は、他の夜間中学の生徒と一緒に受ける。</p>		

○調査テーマ:(名古屋市立夜間中学の開校に向けて)

調査項目	政令指定都市が設置する夜間中学の概要について		
調査都市等	名古屋市教育委員会	調査日	1月29日
調査結果概要	<p>1 中学夜間学級について・・・名古屋市では、愛知県の補助事業として、愛知県教育・スポーツ振興財団が「中学夜間学級」を1973年に開校した。この「中学夜間学級」は、学校教育法に定める学校ではないが、世論のニーズに応えるため、在籍校を変えながら現在は、愛知県教育会館にて運営を継続している。</p> <p>(1)対象者 ・中学校を卒業していないこと ・義務教育終了年齢を超えていること ・愛知県内に在住していること ※募集人員に余裕があるときは、学び直しがしたい方も対象</p> <p>(2)年限と授業日 ・2年(籍を北山中学校に置き、同行の卒業証書を授与) ・各学年20人程度</p> <p>(3)運営 名古屋市の教員を12人派遣 週3日 18時から20時30分</p> <p>2 市立夜間中学校について・・・2021年の衆院予算委員会での総理大臣答弁を受け、名古屋市議会の本会議において「令和7年4月に設置できるよう取り組む」と方針を公表した。その後2023年に、私立夜間中学ニーズ調査アンケート、有識者会議を設置し、「名古屋市立夜間中学校設置基本計画(案)」を策定した。これに対するパブリックコメントと校名の募集を行い、2023年12月に「名古屋市立夜間中学校設置基本計画」が策定され、校名を「名古屋市立なごやか中学校」とする案が選定された。</p> <p>○設置する市立夜間中学の概要 ・開校:令和7年4月 ・設置場所:名古屋市立笹島小中学校内 ・設置形態:単独校として開設(夜間専任の学校長による学校運営体制)</p> <p>・入学対象 学齢期を過ぎた方で、次のいずれかを満たす方 ○様々な理由により義務教育を終了できなかった方 ○本国で義務教育を修了していない外国籍の方 ○不登校などの事情により、義務教育が十分に受けられなかった方 ... 原則、名古屋市在住の方とするが、他市町村からの受け入れについては調整。 ・不登校支援 定員の範囲内で夜間中学で学ぶことを検討。席は在籍校に残し、出席扱いとする。</p>		

○調査テーマ:(自由進度学習による個別最適な学びと協働的な学びについて)

調査項目	名古屋市立山吹小学校における自由進度学習について		
調査都市等	名古屋市立山吹小学校	調査日	1月30日
調査結果概要	<p>従来の一斉授業に対応できない子に対して、いかなる公立学校でもできる授業を提供しようとの考えのもと、山吹小学校では授業改善を図ってきた。中央教育審議会の答申では、「令和の日本型学校教育」として、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を一体的に充実させる必要があると述べられている。これは、山吹小学校が目指す「夢中になって目を輝かせる子どもたち」を育てることにつながると考えている。</p> <p>YST(山吹セレクトタイム)といわれる学習スタイルは、児童らは週間計画に基づいて学びたい教科、使いたい教材、誰と学ぶかなどを選択する。教師は児童一人一人の進度を把握し、サポートに徹する。イエナプランで「ブロックアワー」と呼ばれる時間を元にしたもので、週に5-12こまほどある。自分の学びに責任を持たせること、それが主体性につながっていると分析している。イエナプランの手法をすべて取り入れているのではなく、その考えを取り入れた、山吹小独自の学習スタイルである。</p> <p>授業参観では、子どもたちが自ら立てた学習計画のもと、それぞれの進度で、多様な解決方法を選択し、課題に取り組む姿が見られた。</p> <p>学校長が挙げた課題は、教職員の負担と意識改革、保護者負担の2点であった。</p>		

○各参加者の所感及び調査結果の活用方針

議員氏名	所感及び活用の考え方
福井太一	<p><愛知県における中高一貫教育と県立夜間中学の開校に向けて></p> <p>本県においては、県立身延高校と身延町立身延中学校、南部町立南部中学校が連携型の中高一貫教育を導入している(北杜市立甲陵高等学校、中学校では併設型の一貫教育を実施)。愛知県においては、公立の併設型中高一貫教育の導入はなかった。生徒数の減少や、特色ある教育活動を行う私立学校への生徒の流出、或いは、地域の特性に合った特色ある中高一貫教育の導入を望む声を受けて、検討が始まった。2025年に1校、26年に3校が開校し、いずれも既存の高等学校施設を使用することで、費用の抑制につなげている。</p> <p>本県においても、公立高校で生徒数の減少が続き、学科、コースによっては定員割れを起こしている。特に、東部や峡南の県境付近の高等学校では、県外へ進学する生徒も多いことから、併設型の中高一貫教育の導入も視野に入れながら高校再編の検討を促す必要があると考える。愛知県で準備中のいずれの中高一貫校は、それぞれが特色ある教育活動を行い、差別化も図っている。他県での好事例も参考に、地域や生徒、教職員の声を聞きながら検討に着手したい。</p> <p>次に、県立夜間中学については、文科省が都道府県、指定都市に1校以上設置するよう促進していることから検討をし、2025年に1校、2026年に3校の開校を予定している。いずれも夜間定時制高校に設置をする。対象を、義務教育未終了者のみならず、外国籍、不登校生徒も可能としたことは、幅広いニーズに応えられるものとする。</p>
福井太一	<p><名古屋市立夜間中学の開校に向けて></p> <p>名古屋市では、戦後間もなく夜間中学を開校し、15年ほど運営が続けられた。再開設の要望を受け5年間の空白を経て、愛知県の補助事業として財団による「中学夜間学級」を開校し、以来50年にわたり運営されていることに敬意を表したい。この「中学夜間学級」は学校教育法に定める学校ではないため、今般の「2026年までに全ての都道府県、指定都市に少なくとも1つ設置」という方向性が示されたことを受け、検討がはじめられた。愛知県設置の夜間中学4校、市立夜間中学1校いずれも、既存の学校に設置される。山梨県においても、設置が必須であるが、新設するのではなく、既存の施設を活用することが望ましいと考える。対象者についても、義務教育未終了者のほか、外国籍の方や、不登校経験者など、学び直しがしたいすべての方々を受け入れられるとよい。いずれにしても、愛知県や名古屋市のほか、県教委が視察に行った香川県の先行事例を参考に、県民ニーズに沿ったものとなるように検討していくことが必要。「家庭環境や本人の特性等にかかわらず、誰一人取り残されることなく全ての子どもたちの可能性を引き出す教育を実現する」と、山梨県総合計画の教育政策の基本的な考えにある通り、夜間中学設置に対する期待に応えていきたい。</p>
福井太一	<p><自由進捗学習による個別最適な学びと協働的な学びについて></p> <p>「学校の授業に、子どもが学習状況を自分で判断して学習を進める「自由進捗学習」などを導入し、従来の一斉授業による「教師主導の授業」から、「子ども主体の授業」への授業観の転換を進めます。」と、山梨県総合計画の教育施策の基本的な考えにもあるように、教育現場に大きな転換が求められている。教職員は常に研鑽を積み、目の前の子どもたちの実態に応じて、わかる授業、楽しい学校づくりに尽力している。「子ども主体の授業」についても意識をしながら取り組んでいると承知しているが、総合計画に示されている「子ども主体の授業」は、自由進捗学習や、イエナプラン教育といった教育スタイルをイメージしてと考える。これまでも、自ら課題を設定し、解決方法を考え、試行錯誤しながら課題解決を図り、学びや生活に生かしていくという学習スタイルを、総合的な学習では広く実践している。これを、教科学習にもあてはめていくのが、今回の転換だと言える。一つ注目したいのは、複式学級のある学校である。そこではイエナプラン教育のような異年齢集団による学習スタイルは導入しやすいのではないかと。本県独自で複式を解消するために加配措置がされているが、その加配を活かして、モデル校として異年齢集団による教科学習の実施を検討されたい。また、現在、単元内自由進捗学習を校内研究で扱っている学校があると承知している。この研究成果を広く発信し、全県的な議論を喚起したい。</p>

6 調査状況(写真)

写真 ○ R6年1月29日



(コメント)

愛知県教育委員会から、中高一貫教育と夜間中学設置について聞き取り(説明者:あいちの学び推進課 課長、中高一貫教育室 課長)

愛知県議会議会棟にて

写真 ○ R6年1月29日



(コメント)

名古屋市教育委員会から、夜間中学の概要について聞き取り(説明者 新しい学校推進室 室長、主任指導主事)

愛知県教育会館にて

写真 ○ R6年1月30日



(コメント)

左:山吹小学校で校長より説明を受ける

右:教室内のスペースで自分のペースで学習する児童の様子を見学